



—— 安心の提供と震災からの早期復興のために ——

いわき地域復興センターは、「いわき明星大学と東日本国際大学」が連携して、いわき地域に対する震災復興活動を行う拠点として設立されました。「福島県いわき地域の大学連携による震災復興プロジェクト」をテーマとして、両大学が持ついわき地域の魅力の再生に直結する専門性を提供することで、震災からの早期復興を目指します。

- 【事業の4つの柱】
- I 放射線・放射能測定及び軽減に関する研究事業
 - II 震災記録の保存事業
 - III 被災地の情報発信による観光まちづくり事業
 - IV 被災障がい者自立支援促進事業

情報発信による地域復興活動のご紹介

いわき地域復興センターの4つの事業のうち、「被災地の情報発信による観光まちづくり事業」と「被災障がい者自立支援促進事業」では、さまざまなメディア実践に着手し、地域の復興という課題に取り組んでいます。今回は、その取り組みについて、東日本国際大学の学生がプレゼンテーションを行ったようすを中心にご紹介するとともに、同大学にて11月30日(土)「震災後の情報流通の在り方、多様なメディア実践の可能性」をテーマに開催した「第2回いわき地域復興センターフォーラム」についてお知らせします。

情報発信による観光まちづくり事業

いわきで生活する外国人留学生が、日本人の学生とともに、国内外の「いわきに関心のある、またはこれから関心を持ち得る人々」へ向けて、母国語で“いわきのいま(現在)”を発信することで、長期的な風評被害の払拭を目指しています。

情報サイト【GLOBAL NETWORK】
GLOBAL NETWORK URL <http://global.revive-iwaki.net/>



韓国留学生が、いわき各地のおいしい一品を紹介する取材のようすを中心に発表しました。中国人留学生は、第60回いわき花火大会など掲載したブログ内容について紹介し、「この活動は誇りです」と語りました。

左：発表する韓国留学生のようす
右：韓国留学生による取材のようす

被災障がい者自立支援促進事業

被災した障がい者が自立した地域生活を送ることが出来る環境の再生を目的とした事業です。学生が取材した施設の現状と授産製品の安全性および製品情報を発信することで、障がい者就労支援施設の支援を行っています。

情報サイト【いわきユニバーサルマルシェ】
URL <http://promotion.revive-iwaki.net/>



左：発表する日本人学生のようす
右：活動紹介(取材から発信までの流れ)

取材を行っている学生が、情報発信までの流れとサイトについて説明しました。「普通の学生ではなかなか出来ない体験ができた」「感謝してもらえることが嬉しかった」など本活動を通じて感じたことを述べました。

第2回いわき地域復興センターフォーラム

基調講演 演題：「メディアの森の育て方」

メディアを森に見立て、メディアの役割や多様なメディアを育てる必要性などを解説していただきました。



講師：水越 伸氏



解説図：メディアの森 モデル

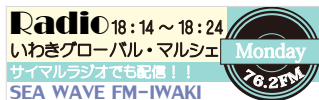
パネルディスカッション テーマ：「被災地からの情報発信の現状と課題」

パネリストが現在行っている情報発信について順番に発表を行った後、水越氏から助言をいただきながら、今後の活動について議論を行いました。



コーディネータ(左)：坂田勝彦氏 東日本国際大学福祉環境学部准教授
水越 伸氏 東京大学大学院情報学環教授

パネリスト(左から)：安部正明氏 (株)いわき市民コミュニティ放送局長
山田紀浩氏 東日本国際大学経済情報学部准教授



「ラジピタリイ evening」内で
毎週月曜放送中!

放射能検査施設見学バスツアーを開催しました！！

いわき地域復興センターでは、活動のひとつとして、各種放射能検査やミニ相談会実施などを通じて、皆さまが放射能問題について考える場を提供する取り組みを行っております。このたび平成25年12月4日（水）、流通している食品を中心とした放射能検査のようすや福島県の取り組みを、皆さまに知っていただくことを目的としたバスツアーを開催し、市民31名の方にご参加いただきました。そのようすをご紹介します。

見学コース



いわき明星大学
環境放射線測定室



＜検査手順説明のようす＞
検体準備から測定完了まで、一連の流れをご覧いただきました。



＜学生による説明のようす＞
除染研究の成果について、パネルを使用して説明しています。



いわき市農業協同組合
カントリーエレベーター



＜概要説明のようす＞
福島県米の全量全袋検査実績等についてお話をいただきました。



＜米の全量全袋検査のようす＞
ベルトコンベア式検査機器によるスクリーニング検査が行われています。



福島県農業総合センター



＜概要説明のようす＞
農林水産物の放射性物質モニタリング検査についてお話をいただきました。



＜検査室・測定器のようす＞
検査には、ゲルマニウム半導体検出器が計10台使用されています。

参加者の声

アンケートより抜粋
回収率 31/31 (100%)

今日はありがとうございました。楽しく放射能について分かったようです。お米（野菜いわき地元）についてはまだ孫達に食べさせていませんが、よく考えて食べるようにしたいと思います。（70代・女性）

結果報告等（検査）を新聞やテレビで見ても不安があり、遠方の物を高い価格で購入して生活しています。今日の見学で考え方が変わってきました。参加してよかったです。（70代・女性）

当センタースタッフより

どの見学場所でも担当の方の説明に熱心に聞き入り、積極的に質問する参加者の方の姿から、放射能問題への関心の強さを感じました。アンケートでは、「今後、今回のようなバスツアーがあったら参加しますか。」の問いに、全員の方が参加したいと回答下さいました。これからもみなさまと一緒に、わたしたちも勉強して参りたいと思います。ご参加ありがとうございました！

今後もバスツアーを企画予定です。みなさまのご要望を、いわき地域復興センターまでお寄せください。

第18回ミニ相談会 開催報告

いわき地域復興センターでは、11月22日（金）、「植物を使った除染の可能性～身近な場所の除染について考えよう～」をテーマに、第18回ミニ相談会を開催しました。いわき明星大学では、様々な除染研究に取り組んでおります。今回は、植物による放射性物質汚染土壌の除染効果について、講師の先生からお話をいただきました。＜講師：佐々木 秀明准教授＞



今後のミニ相談会のお知らせ

第19回 12月21日（土）10：00～ 場所：いわき明星大学 本館1階教員談話室
テーマ「身近な場所の除染について知ろう！～除染の方法をその効果について～」
講師：除染情報プラザ派遣専門家 須田博文氏（株式会社イング）

第20回 1月23日（木）10：30～ 場所：いわき明星大学 環境放射線測定室
テーマ「知っておきたい放射線測定～サーベイメータで計った空間線量率の中身～」
講師：いわき明星大学 環境放射線測定室 信田重成氏

参加費は無料です。是非お気軽に、ご参加・お問い合わせください。

【お問い合わせ】いわき地域復興センター ☎0246-38-7132

文部科学省
平成23年度大学等における
地域復興のためのセンターの機能整備事業

いわき地域復興センター

〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾74-8
Tel.0246-38-7132 Fax.0246-38-7134
URL <http://www.revive-iwaki.net/>



● 過去の情報やセンターの詳しい活動内容はHPをご覧ください。 ●